

清水興津中グループ「おきつ学園」 園・小中一貫教育基本構想



【地域の特性と児童生徒の実態】

<地域の特性>

- 風光明媚で知られた清見潟が広がり、江戸時代には興津宿として東海道五十三次の17番目の宿場町として発展した。
- 歴史ある興津の地には、先人たちが積み上げてきた地域の力が今でも、しっかりと残っており、地域に対する住民の愛着心・自負心は大変高い土地柄である。
- 興津地区には、西園寺公望が晩年を過ごした別荘を復元した興津坐魚荘等、重要な建築物や歴史を残している地区である。

<児童生徒の実態>

- 素直で、元気であり、学年が上がるにつれて、進んで挨拶ができる。節度ある言動ができ、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- 行事に仲間と協力して取り組むことができ、仲間を大切にしたいやりの心が育っている。
- 地域との連携で、社会性や郷土愛が育まれている。
- ◆ 学習の基礎基本の定着、家庭学習の習慣化を図る必要がある。
- ◆ 自ら判断して主体的に取り組む姿勢を伸ばしていきたい。

興津地区の特性を活用し

児童生徒の良さを伸ばし課題を解決する

小中共通目標の実現を目指して

視点1 目標の共有

小中一貫教育 教育目標 「心豊かで高め合う子」(小中共通)

【目指す子どもの姿】

自分を取り巻くすべての人・もの・ことに感謝し、仲間と協力し、より良いものを創造している姿

義務教育9年間の系統性・連続性「たてのつながり」

視点2 連続性・系統性

【柱1】

指導観を共有し、一人一人を大切にした教育の推進

- ・各教科等の学習内容の実態把握
- ・小中の系統性を意識した教科等の年間指導計画
- ・総合的な学習の時間(おきつ学)の実施
- ・特別支援教育の充実
- ・保健教育の推進 等

【柱2】

子どもが生活しやすく授業に集中できる環境づくり
～ユニバーサルデザインの視点を生かして～

- ・基本的な生活習慣(服装・言動・時間)の徹底
- ・校舎内が整理整頓され授業に集中できる環境
- ・考えを伝え合い、学びを深める授業構想
- ・仲間を思いやり、安心して生活できる環境

視点3 協働・交流

教育の条件整備

(予算の有効活用・小中連携した事務室運営)

視点4 地域連携

【柱3】

教職員・児童生徒が協働した交流活動の推進

- ・交流授業の実施 ・音楽交流会の実施
- ・児童会・生徒会による挨拶運動 ・幼保園との交流
- ・小・中学校による特別支援学級の交流
- ・教職員による興津地区フィールドワークの実施
- ・地域運動会における交流 ・小中合同防災訓練 等

【柱4】

郷土を愛し、貢献する心を育てる地域連携

- ・地域人材の積極的活用(講師派遣、学校応援団等)
- ・「興津型防災学習」での地域との交流活動の実施
- ・地域防災訓練やボランティア活動への積極的参加
- ・地域行事(朝鮮通信使・西園寺公望動読劇)への参加
- ・健全育成大会への児童・生徒の参加 等

保護者・地域との連携・協働 「よこのつながり」

生活充実部会

- 落ち着いた生活習慣
 - ・「生活のルール」の系統性
 - ・小中間で校則等の共有
- 子ども理解
 - ・深い子ども理解
 - ・語る会等での情報共有

学力向上部会

- 学びに向かう姿勢
 - ・「聴き方・話し方」の徹底
 - ・基礎基本の定着
- 小中交流の推進
 - ・図書「おきつ100選」の推進
 - ・作品の交換掲示(図工・美術)

おきつ学園小中一貫教育目標の実現に向けて



① 小中一貫教育構想の共有

② 小中で共通・連続した取組検討

③ 小中一貫教育の成果・課題の検証

活動推進部会

- より良い集団づくり
 - ・温かな集団づくり
 - ・学級・学年等での認め合い活動
- 委員会活動の推進
 - ・児童会・生徒会活動の交流
 - ・情報発信、共同活動の実施

地域連携部会

- 「おきつ学」の充実
 - ・9年間のカリキュラムの策定(「歴史・文化・防災」学習)
- 地域との交流
 - ・地域人材の活用、行事への参加

各支援部会との連携・協働

※こども園との円滑な接続

※令和6年度にCSへ移行



興津学区CNとの連携・協働

おきつ学園小中一貫教育コミュニティ委員会 ※興津地区PTA連絡協議会と兼ねる